

国指定史跡「荻外荘(近衛文麿旧宅)」の復原整備完成記念企画展 「近衛家と細川家 着物が紡ぐ家族の記憶」開催

国指定史跡「荻外荘(近衛文麿旧宅)」の復原整備完成を記念し、1/11(土)~3/9(日)、郷土博物館本館で「近衛家と細川家 着物が紡ぐ家族の記憶」を開催します。



昭和10年代の ほそかわもりさだ よしこ 細川護貞・温子

細川家に奇跡的に残された、昭和前期の着物の優品を初めて展示公開します。この他、近衛・細川両家が所蔵する温子と家族の写真や婚礼時に来賓に引き出物として配られたボンボニエール※なども展示します。

本展は、近衛文麿の次女で、細川護貞と結婚した温子と、近衛・細川両家の絆に焦点を当てた企画展となります。

※ボンボニエール

ヨーロッパにおいては祝賀の場に添えられる砂糖菓子(ボンボン)を入れる小箱を指す。日本では近代以降、主に皇族や華族などの饗宴の場で、招待客に記念品として贈られる菓子器や工芸品を指す。

《細川(旧姓：近衛)温子について》

大正7年(1918)6月23日、近衛文麿の次女として生まれる。昭和12年(1937)4月16日に、細川護貞と結婚した。二人は、父親同士に親交があったことから幼なじみだった。護貞が19歳だった頃、米国留学から帰国してきた温子の兄・近衛文隆を横浜港まで迎えに行った際、兄を出迎えていた13歳の温子の非常に明るく活発な人柄に惹かれて結婚を意識したという。

二人の間には、長男・護熙、次男・護輝が生まれる。しかし、二人の結婚生活はわずか3年ほどで幕を閉じる。温子は昭和14年(1939)5月に護輝を出産した後、22歳の若さで病没する。当時としては手のほどこしようがなく、急激に体調が悪化し、護貞と父・文麿に看取られて亡くなった。



くろちりめんじくもたちばなさつしむようかりそで
黒縮緬地雲橘冊子模様振袖



令和7年1月10日
杉並区広報課

《近衛家と細川家の結びつき》

細川護貞は昭和15年(1940)に首相・近衛文麿の秘書官となり、終戦直前には高松宮や重臣たちによる和平計画の連絡役も務めた。

護貞の次男・護輝は、伯父で文麿の長男の文隆がシベリア抑留中に死去したことから、昭和40年(1965)に近衛家の養子に迎えられ、近衛忠輝と改名した。

【会期中のイベント】

- ・講演会「明治・大正・昭和の女性の着物—伝統継承と近代化の融合が生み出した着物の美—」(要申込み)
長崎巖氏(共立女子大学名誉教授・丸紅ギャラリー副館長)
2月1日(土)14時~16時 郷土博物館本館 視聴覚室にて
- ・学芸員による展示解説(申込み不要)
2月8日(土)、3月1日(土)

両日とも11時~11時30分、14時~14時30分

郷土博物館 特別展示室にて



詳細は区ホームページをご覧ください。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/event/kyouikuiinnkai/kyodohakubutsukan/1097712.html>

郷土博物館分館にて、開催中の
企画展「『荻外荘』と近衛文麿」は1/26(日)まで!



詳細は区ホームページをご覧ください。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/event/kyouikuiinnkai/kyodohakubutsukan/1096318.html>

※別添のチラシもご覧ください。

【報道機関 問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841

広報課報道係：03-3312-2111 内線1502